



頼られる存在に

寄神建設株式会社
神翔—1600 船長

平井 圭太 さん(ひらい・けいた)

入社翌年の1993年に竣工した1,600t吊の旋回式起重機船兼杭打船「神翔—1600」に乗り込んで以来、共に歩んできた。一貫して神翔—1600に携わり、甲板員、クレーン操縦士などの経験を経て、2016年10月に4代目の船長に就任した。神翔—1600への乗船歴は、12～13人いる乗員の中でも最も長い。諸先輩にはさまざまな事柄を教わった。その経験を踏まえ、「歴代3人の船長と同様、頼られる存在が目標」。

海洋での工事は陸上以上に、気象条件に左右される。地球規模で起きている気候変動の影響も大きい。台風の大型化などのほか、黒潮の蛇行によって回航が1日以上余計にかかることもあり、従来のデータが活用できにくくなっている。工事の実施可能日が限られるため、いったん工事が始まれば、お盆・年末年始の休暇も関係なく業務に当たらなければならない。

近年、海洋工事の出件は多い。海外案件も含め、数年先を見通した受注に期待も膨らむ。工事が行われていなくても、装備品の保守・点検、塗装の塗り替えなどメンテナンス業務は必要で、乗員の休



海人

現場最前線

暇スケジュール調整に頭を悩ますのが日課のよう。

これまで、北海道から沖縄まで日本中の海洋工事現場で従事してきた。台湾での発電所建設関連工事に携わったこともある。初めての海外案件となる台湾で神翔—1600に乗り込む際、通船の都合で予定より1週間ほど長く陸上での待機を余儀なくされた。「その間に持ち込み予定の食材の多くが腐ってしまって、代替を調達するのに苦労した」と振り返る。そのときに、第1子となる長女が誕生したが、面会は誕生から1カ月後だったという。そんな自身の経験を踏まえながら、「せっかく入社しても、プライベートの時間を満足に過ごせないような就業環境では、長続きする若者は少ない」。特殊な職業柄、本人以上に家族など周囲の人々の理解も必要という。

2024年度からの時間外労働規制強化を含め、近年の働き方改革で賃金アップや処遇改善など、働きやすい環境に向けた改善が社会全体で進む。「会社も力を入れて取り組んでいるので、少しずつ就業環境が変わってきている」と実感する。こうした変化に、「情報を乗員と共有し、意思疎通を図り、皆が同じベクトルを持つようにしたい」と、風通しの良い職場づくりに力を入れる。それが物損を含めた事故の防止に最も役立つからだ。

愛着のある神翔—1600を引き継ぐのがだれになるのか。将来を楽しみに、後継者育成に心血を注いでいる。

【旋回式起重機船兼杭打船「神翔—1600」】

国内最大級の旋回式起重機船。杭打装備を装着した多目的作業船で、全旋回式のため作業効率が高い。400t×4フックの1,600t吊りで、吊り上げ高さは65m。フライングジブを取り付けた場合の吊り上げ高さは89m。バックタワーを格納すると、橋下29mの通過も可能。甲板部が広いので、品物の搭載が容易だ。

〈船体部〉

長さ：95.0m 幅：45.0m 深さ：7.0m
喫水(最大荷重時平均)：5.2m

〈起重機部〉

形式：全旋回ジブ起伏式
主巻(ジブ角度64度)
定格荷重：1,600t(400t×4)
アウトリーチ(旋回中心より)：約40.0m
巻上高さ(水面上)：約73.0m
巻上速度：分速3.0m